

LGBTQと孤独・孤立

2022年10月26日(水)

認定特定非営利活動法人ReBit

代表理事 薬師実芳

HP : <http://rebitlgbt.org>





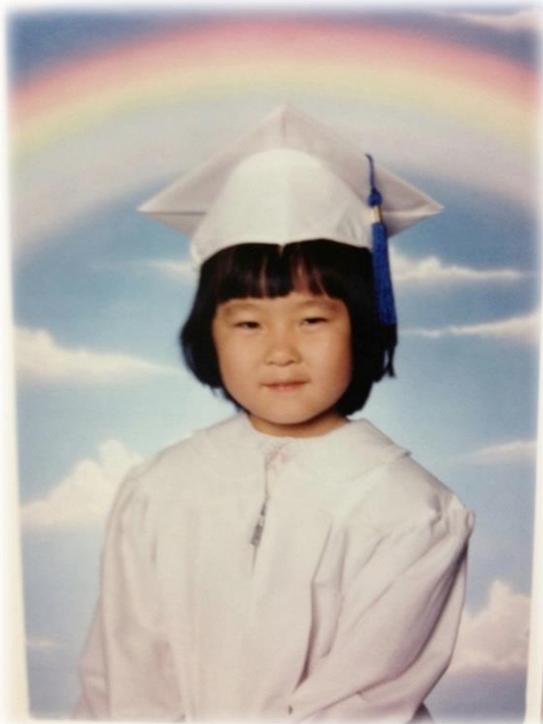
薬師実芳

認定NPO法人ReBit 代表理事

社会福祉士

国家資格キャリアコンサルティング技能士(2級)

LGBTQを含めた全ての子どもがありのままで大人になれる社会を目指し、大学2年時にReBitを設立。LGBTQやダイバーシティ研修（1600回+）、キャリア支援（5000名+）、国内最大級のダイバーシティ・キャリアフォーラム開催を行う。LGBTQのダボス会議が選ぶ世界の若手リーダー、グローバル・シェーパーズ・コミュニティ選出、オバマ財団が選ぶアジア・パシフィックのリーダー選出。共著に「LGBTってなんだろう?」「トランスジェンダーと職場環境ハンドブック」等。



性別違和があることを相談できず、17歳で自殺未遂。
「だれかとちがう」ことで悩む子どもたちに「あなたのま
まで大丈夫」と伝えたくて20歳でReBit設立。

ReBitについて

Vision

LGBTQを含めたすべての子どもが
ありのままで大人になれる社会の創出

Mission

- 1) LGBTQの子ども・若者特有の困難の解消
- 2) 多様性を包摂する社会風土の醸成

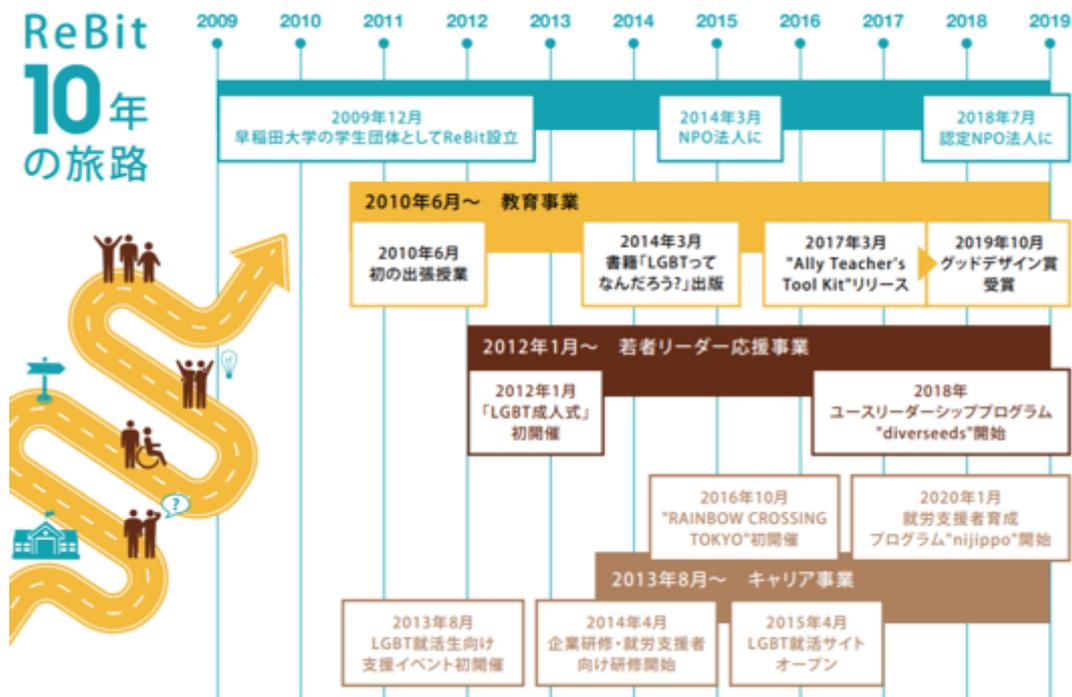
沿革

2009年12月学生団体として設立
2014年3月NPO法人化
2018年7月認定NPO法人に

メンバー構成

理事6名、監事1名
有給スタッフ15名
(常勤10名、非常勤4名、業務委託1名)
ボランティアメンバー のべ600名
その他、外部アドバイザーや協力団体多数

活動概要



これまでのソーシャルインパクト

- キャリア支援を提供した人数：5100人
- 企業・就労支援機関への啓発資材提供：1.5万冊
- 教材提供数・教材動画再生数：3.5万部・10.5万回
- 研修提供回数：1484回
- 研修受講者数：20万人
(2021年度までの累計実績)

ReBitの取り組む事業

教育事業



教育現場での普及啓発（2010年～）

- 子どもや教員/行政担当者に授業/研修実施(1090回、15.3万人)
- 多様な性に関する本、映像教材などを作成（3.5万部発行/10.5万回再生）。グッドデザイン賞を受賞。教科書監修。
- 教職員向けオンライン情報センター「Ally Teacher's School」運営、LGBTの教育効果に関する調査実施

若者育成



LGBT若者リーダー応援（2011年～）

- 日本最大級の、LGBTの若者をエンパワメントするイベント「LGBT成人式」の開催（17地域、5500人参加）
- 各地の若手リーダー応援するプログラム「diverseeds」実施（19地域、55人育成）

キャリア事業



若者のキャリア応援（2013年～）

- 就活生/求職者等へキャリア支援の提供（5100人）。
- 企業/キャリア支援者研修（394回、4.7万人）、教材提供（1.5万部）、キャリア支援者育成プログラム提供（30名）。
- 国内最大級のダイバーシティ・キャリアフォーラムを開催（のべ参加55.6万人、企業出展のべ126社。厚労省、文科省等後援）
- ダイバーシティに関する情報サイト運営、キャリアに関する調査

福祉事業



福祉サービス事業の展開（2021年～）

- 日本初のLGBTQフレンドリーな就労移行支援事業所（障害がある方の就活支援を行う福祉サービス）を渋谷区にて開所。精神・発達障害があるLGBTQを中心に、支援を行う。
- LGBTQの福祉利用に関する調査実施、支援者向け研修の実施等

LGBTQの孤独・孤立における現状

『LGBTQ子ども・若者調査2022』

◎主体：認定NPO法人ReBit

◎目的：LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティの子ども・若者（12歳～34歳）の学校や社会での現状を知り、行政やメディアなどに届けることで、社会の状況を改善する。

◎期間：2022年9月4日（日）～9月30日（金）

◎回答者数：2670名（うち、有効回答2623名）

◎詳細：<https://rebitlgbt.org/news/9264>



LGBTQは孤独・孤立におけるハイリスク層

LGBTQの子ども・若者調査2022

孤独・孤立「あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか？」

年代別LGBTQの孤独



孤独感が「しばしばある・常にある」10代LGBTQは29.4%、20代LGBTQは27.2%。
内閣府の全国調査と比較し、10代LGBTQの孤独感は8.6倍。
LGBTQユースは、孤独・孤立におけるハイリスク層。

※アンケート概要：<回収期間>2022年9月4日～30日 <調査方法>SNS等インターネットで募集
<回答数>2670 <調査実施主体>認定NPO法人ReBit

ReBit

LGBTQは精神障害におけるハイリスク層

LGBTQの子ども・若者調査2022

メンタルヘルスの状況 (K6尺度)

年代別LGBTQのメンタルヘルス



気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者（10点以上）が
厚労省の全国調査と比較し、10代は7.2倍。
LGBTQユースは、精神障害におけるハイリスク層。

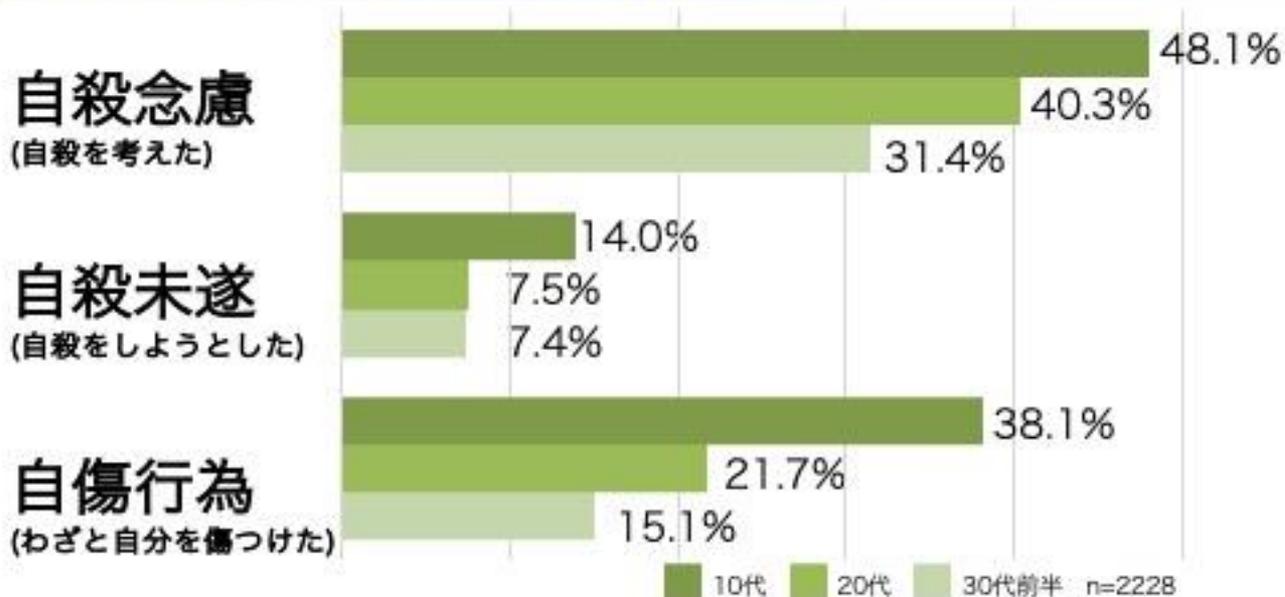
※アンケート概要：＜回収期間＞2022年9月4日～30日 ＜調査方法＞SNS等インターネットで募集
＜回答数＞2670 ＜調査実施主体＞認定NPO法人ReBit

ReBit

LGBTQは自殺におけるハイリスク層

LGBTQの子ども・若者調査2022

この1年に経験したこと（自死・自傷）



10代全国調査比較※

自殺念慮
3.8倍

自殺未遂
4.1倍

※日本財団(2021)
『日本財団第4回自殺意識調査』と比較

10代LGBTQは、
この1年で、**48.1%**が**自殺念慮**、**14.0%**が**自殺未遂**、**38.1%**が**自傷行為**を経験

※アンケート概要：＜回収期間＞2022年9月4日～30日 ＜調査方法＞SNS等インターネットで募集
＜回答数＞2670 ＜調査実施主体＞認定NPO法人ReBit

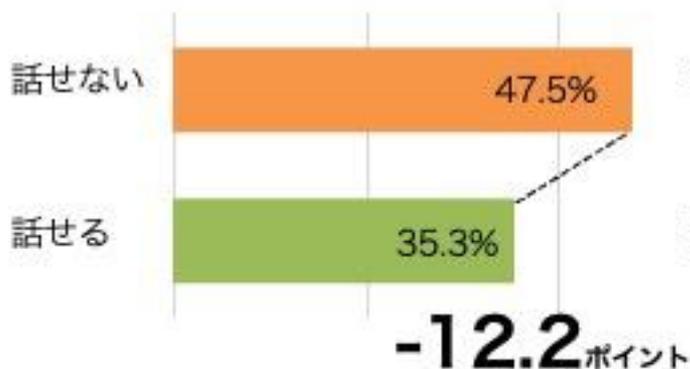


セクシュアリティについて安心して 相談できる人・場があると自殺リスク減

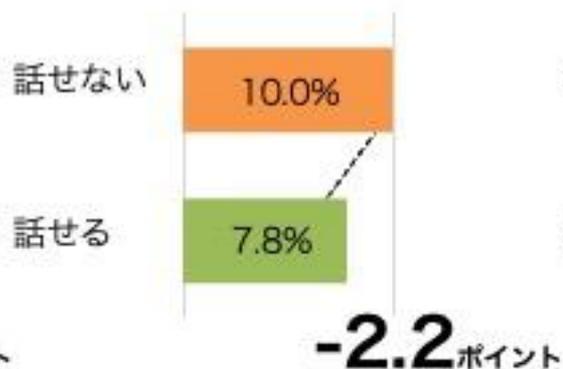
LGBTQの子ども・若者調査2022

相談できる人・場所の有無と、自殺・自傷の関係性

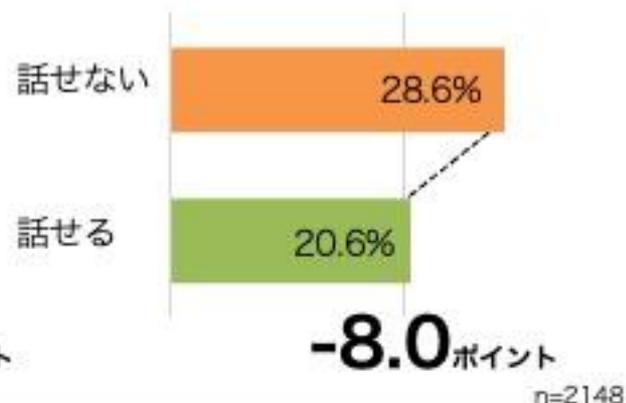
■ 自殺念慮



■ 自殺未遂



■ 自傷行為



普段からセクシュアリティについて安心して話せる人や場所があるLGBTQユースは、
自殺念慮が12.2ポイント、自殺未遂が2.2ポイント、自傷行為が8.0ポイント減少

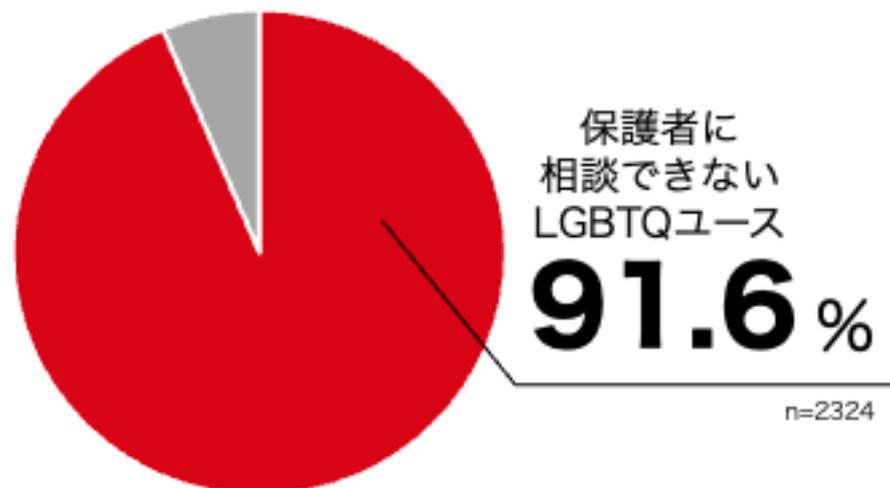
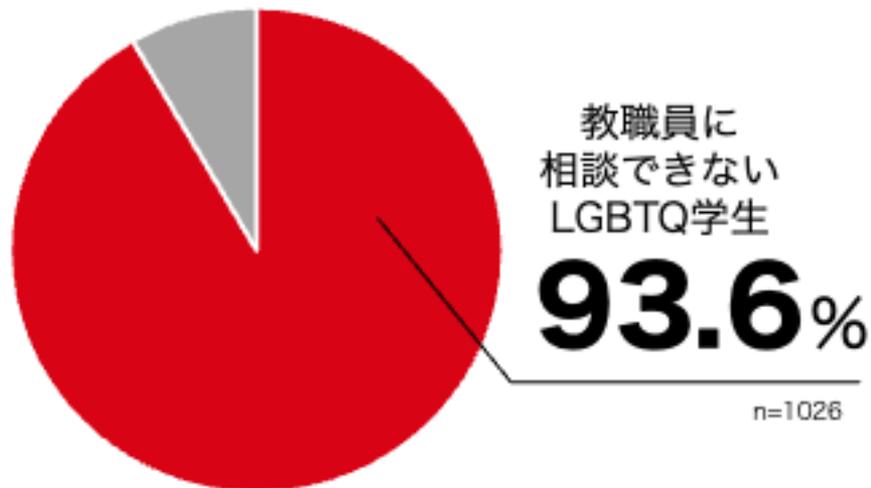
※アンケート概要：＜回収期間＞2022年9月4日～30日 ＜調査方法＞SNS等インターネットで募集
＜回答数＞2670 ＜調査実施主体＞認定NPO法人ReBit



しかし、LGBTQユースの9割以上は 保護者や教職員に相談できていない

LGBTQの子ども・若者調査2022

教職員や保護者へ相談できるか



LGBTQユースの**91.6%**が、セクシュアリティについて**保護者に安心して話せない**

※アンケート概要：<回収期間>2022年9月4日～30日 <調査方法>SNS等インターネットで募集
<回答数>2670 <調査実施主体>認定NPO法人ReBit

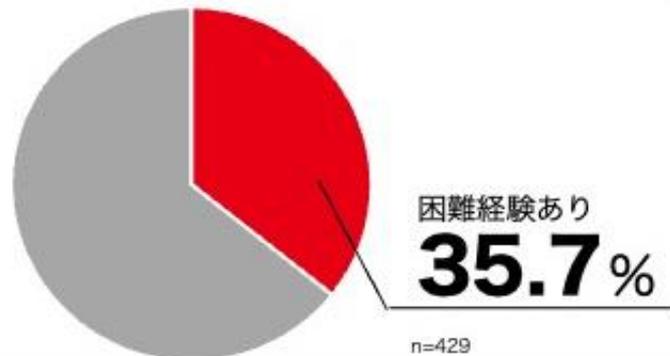
 ReBit

LGBTQは就活・就労時の困難も多く、 生活困窮にもつながっている

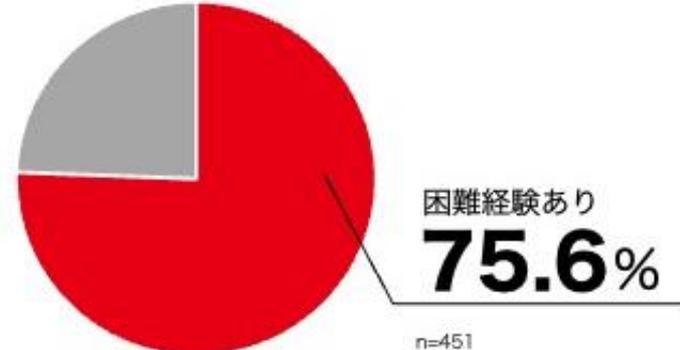
1. 就活における困難

- LGB他の35.7%、トランスジェンダーの75.6%が求職時にセクシュアリティに由来した困難やハラスメントを経験。

■ LGB等



■ トランスジェンダー



2. 職場における困難

- 4割超のLGBT「職場でSOGIに関する差別的言動が頻繁にある」と回答
- LGBの27.0%、トランスジェンダーの37.6%が職場でアウティング経験^{*1}
→このような状況は、生活困窮（トランスジェンダーの約4割が年収200万円以下^{*2}）にもつながっている。

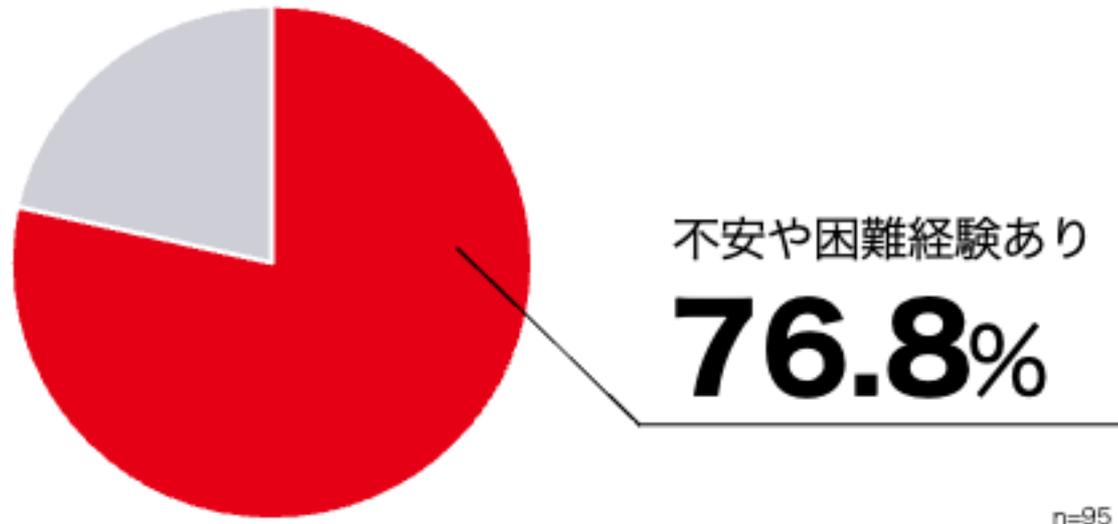
*1. 特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター（2019）「niji VOICE 2019」

*2. 特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター（2015）「LGBTに関する職場環境アンケート」

一方で、LGBTQは行政・福祉サービスを利用する際に、多くの不安や困難を経験

精神・発達障がいがある性的マイノリティの求職活動に関するアンケート

障がいや就労に関する行政・福祉サービス利用における不安や困難経験



76.8% が、障がいや就労に関する行政・福祉サービス利用における不安や困難を経験

※アンケート概要：<回収期間>2021年5月1日～23日 <調査方法>SNS等インターネットで募集
<回答数>260 <調査実施主体>認定NPO法人ReBit

LGBTQの孤独・孤立を解消するために

皆様と取り組みたいこと

- LGBTQは自殺、メンタルヘルス、孤独孤立、困窮等におけるハイリスク層です。これらの施策・計画内でLGBTQへの取り組みを明記し実施していくことが重要です。
- 行政や福祉サービス、支援機関を含め、既存の支援資源をLGBTQも安全に利用できる体制構築や制度設計が急がれています。
- 支援職はもちろん、行政担当者・教職員・保護者・企業担当者等、幅広い関係者全体での理解促進と連携が大切です。

LGBTQと孤独・孤立

本日はありがとうございました！

2022年10月26日(水)

認定特定非営利活動法人ReBit

代表理事 薬師実芳

HP : <http://rebitlgbt.org>

